

## 1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺

## 「岐阜」 解説

濃尾断層帯は、両白山地から濃尾平野北方にかけて位置し、温見断層、濃尾断層帯主部、揖斐川断層帯、武儀川断層からなり、それぞれ概ね北西－南東方向に延びる（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2005）。本図には、濃尾断層帯を構成する濃尾断層帯主部に包括される梅原断層から延びる地震断層と二条の推定活断層が記載されている。

本図の北域には、北側に隣接する「美濃」図葉の梅原断層から延びる濃尾地震（1891）に伴う地震断層が関市、美濃加茂市を経由して坂祝町まで、北西－南東方向に長さ約 17 km にわたって断続的に分布する。この地域には、南流する鳥羽川や武儀川・長良川沿いに谷底平野が形成されているが、これらを東西方向に横切る低地が発達しており、これは梅原断層に沿う断層谷とみなされる。濃尾地震時に現れた地震断層は、その後の耕地整理や人工改変を受けているため、写真判読では位置が検出できない。また、当域の梅原断層は活動間隔が長く、変位速度も大きくないので、明確な変位地形は確認できない。

本図の北西域には、岐阜市彦坂から同市栗野西に至る断層、さらに南側には、岐阜市石谷から岩田西に至る断層が分布している。岐阜市彦坂から栗野西に至る断層は、彦坂集落から栗野西集落まで、北西－南東方向に長さ約 3 km 延びる推定活断層で、根尾谷断層の南東延長部に当る位置に認められる。鞍部が直線状に配列し、横断する河谷に左屈曲が認められる。しかしこれらの地形は明瞭でないので、活動時期の古い断層や岩石の硬軟に起因する組織地形の可能性もある。

また、岐阜市石谷から岩田西に至る断層は、石谷集落から長良川を越え同市岩田西まで、北西－南東方向に長さ約 9 km 延びる推定活断層である。鞍部の地形が直線状に配列し、横断する数本の河谷に左屈曲が認められる。しかし、左屈曲は下流方向への曲がりであり、確実な変位地形とは言えない。鞍部地形もやや不明瞭であるので、組織地形の可能性もある。なお、この断層は地震調査推進本部地震調査委員会（2005）では、三田洞断層と称されており、濃尾断層主部を構成する断層の一部と考えられている。

（京都大学名誉教授 岡田篤正）

## 引用文献

地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）：濃尾断層帯の長期評価について。主要活断層帯の長期評価，地震調査研究推進本部。

[https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou\\_pdf/60\\_nobi.pdf](https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/60_nobi.pdf)（2018 年 3 月 12 日閲覧）